

新宿区協働推進基金助成事業のご案内

新宿ソダチ

見て見て!

新生・Webマガジン



新宿で活躍する
NPOをご紹介します!

2023-2024



医療的ケアが必要なお子さんも 安心安全に楽しめる おまつりを！



【紹介事業】 令和5年度の助成事業 | **秋まつり**
01 団体名 | 特定非営利活動法人 えがおさんさん
 助成額 | 412,000円

医療的ケアが必要な子どもとその家族が地域でえがおで暮らせるための支援に取り組むNPO法人えがおさんさん(以下、同団体)。今回の助成事業では、プロの音楽家、パフォーマーなどが出演する、親子が安心して楽しめる「秋まつり」を開催しました。

■ 医療的ケアが必要な子どもも楽しめる場を

ピエロによるマジックやジャグリング、陽気なドラムの音、フルート演奏やみんなで踊るダンス。プロのパフォーマンスに大人も子どもも笑顔がこぼれます。中には車椅子の子ども、人工呼吸器をつけた子ども、発達障害の子どもも。「重い障害がある子どもを育てるご家族は、外出へのハードルが高く家にこもりがちです。また知的障害や発達障害がある子どもはじっと座っていることが難しく、ご家族の方が安心して参加できるイベントはなかなかありません。そんな方たちに、安心安全な環境で楽しんでいただけるイベントを開催したいと思ったのです」

そう語るのは同団体代表理事の田中歩さんと事務局助成金担当の阪口佐知子さん。

同団体は、1995年頃に、難病や人工呼吸器など医療的ケアが必要なお子さんとその家族を支援するためのボランティア・グループとして始まりました。2011年よりNPO法人となり、現在は、訪問看護、居宅介護、放課後等デイサービス、児童発達支援の4つが事業の柱です。

そのほかボランティア活動として、「えがおファンクラブ」を運営し、さまざまなアクティビティやお祭りなどのプロジェクトを定期的で開催してきました。しばらくコロナで開催ができませんでしたが、昨年は新宿区子ども未来基



ロゴマークの猫は生前、呼吸器をつけて自宅療養されていた阪口さんの娘さんが描いたもの。病気とともに生きる子どもが描いたこのイラストはえがおさんさんの原点。

特定非営利活動法人 えがおさんさん

【団体概要】 新宿区における医療的ケアの草分け。①障害児・者と家族が、自宅で安心して、生活できる社会、②障害児・者が自分の人生を自分らしく選択できる社会、③障害児・者と家族を応援する人が増えることで、誰もがえがおで暮らせる社会をビジョンとし、医療的ケア児・者を含む全ての障害児・者の支援活動を行っている。また障害児・者の支援者を増やすために研修事業も行っている。

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-25-36-30C
 TEL 03(3209)8668 URL https://egaosunsun.com/

今年度の活動内容

- ◆ えがおさん秋まつり
 - 令和5年11月25日(二部制)
 - 第1部 10:00~12:00
 - 第2部 13:30~15:30
 - 令和6年1月20日(オンライン)
 - 11:00~12:00



理事の田中さん(右)と阪口さん。同団体の活動は阪口さんがご自身のお子さんのケアのために奔走したことから始まりました。



金を得て人数制限の上、徐々にイベントを開催。

「予想以上のご参加があり、こういうイベントの必要性を強く感じました。そこで今回の助成事業に応募して『秋まつり』を企画したのです」(阪口さん)

■ 多くの方たちの協力でみんな笑顔に

「秋まつり」は区内在住で難病や障害、医療的ケアが必要な小・中学生とその家族を対象に、11月25日、午前・午後の2回開催されました。

冒頭でも紹介したように、ピエロによるパフォーマンス、セネガル出身の演奏家によるドラム演奏、ボランティアの学生さんによる楽器演奏のほか、みんなで音楽に合わせてダンスをして楽しみました。「新宿区福祉作業所のパン屋さんの屋台も出て、おまつりを盛り上げてくれました」と田中さん。秋まつりの様子はプロカメラマンに撮影・録音を依頼し、1月20日にオンラインでの開催も行いました。

「普段から関わっているスタッフが参加しているので車いすや人工呼吸器をつけたお子さんをはじめ発達障害のお子さんでも安心して参加していただきました。スタッフも子どもたちのいつもと違う表情を見ることができやがいを感ずることができました」(田中さん)。今年の参加者はボ

ランティア等を含め午前午後合わせて約180人と大盛況でした。参加した家族は家族ぐるみで交流し、日頃のストレス発散、情報交換もできた様子。アンケートでも「また来たい」、「楽しかった」との声が多数寄せられたそうです。

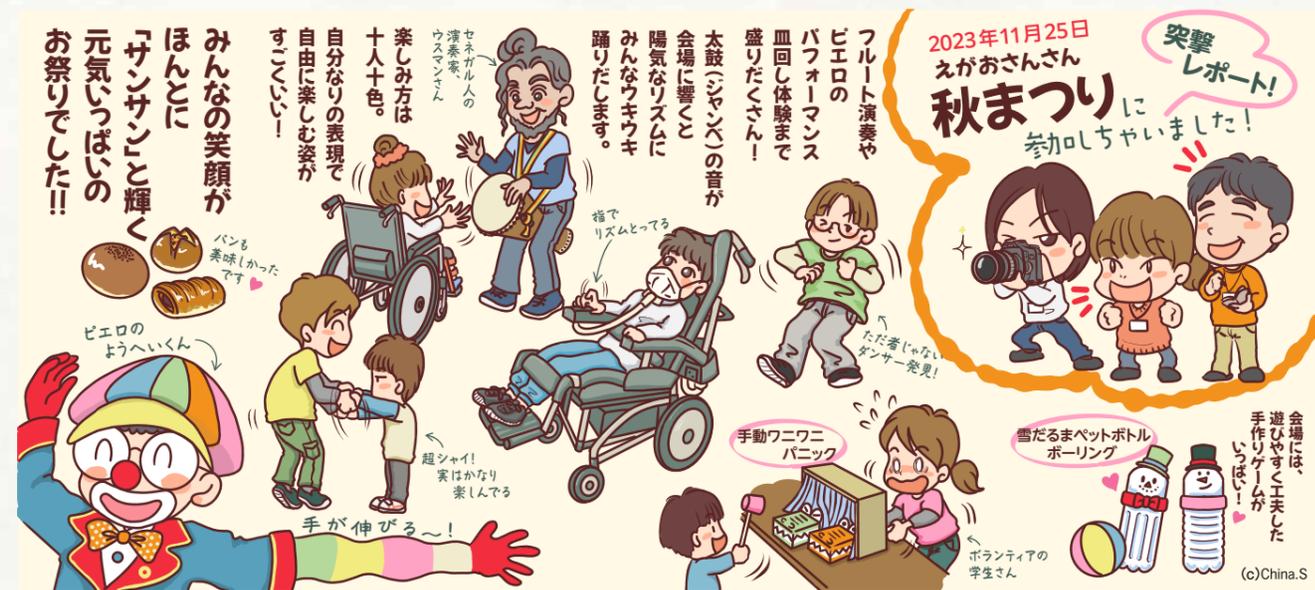
■ これからも求められる事業を目指して

「今回、助成事業に参加したおかげで新宿区の広報紙にイベントの告知が掲載され、『医療的ケア』という言葉が一般の人たちにも広まる良い機会になった」と阪口さん。

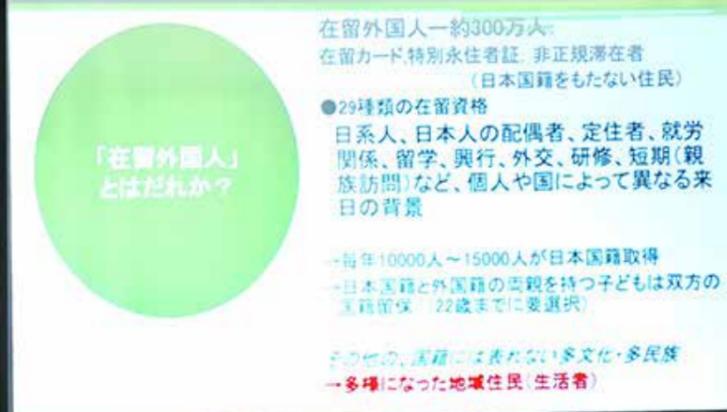
「障害のある人にどう接していいかわからない、怖いと思っている方もいるかもしれません。でも、一緒に同じ時間を過ごすことで、障害のある人もない人も楽しめるようになってもらえると嬉しい」と田中さん。

資金面や人員の育成など問題は山積みですが、お二人は「やってほしいこと(ニーズ)＝あるべき、必要なケア」と真摯に捉え、これからも喜んでもらえるイベントを継続していく覚悟だそう。誰もが笑顔で幸せに暮らせる社会のために今後も邁進されることでしょう。(令和5年12月12日取材)

取材を終えて 田中さん、阪口さんは団体の理事および管理者であり看護師、介護福祉士でもあります。多忙な中、お子さんやご家族に寄り添う姿勢と行動力に感動しました。(相原登美子)



日本人も外国人も心地よい 共生を目指して



【紹介事業】 令和5年度の助成事業 | 「わたしの隣の外国人」を知る・つなげる連続講座
 02 団体名 | 特定非営利活動法人 シャプラニール=市民による海外協力の会
 助成額 | 456,000円

増え続ける在住外国人。労働力不足解消策として国が在留資格制度を緩和するなど今後もこの数は増加の見通し。孤立や差別、近隣トラブルを避け、在住外国人が心地よく住むために、私たちに何ができるのか。NPO法人シャプラニール（以下同団体）はこの難しい問題に取り組んでいます。

■ 在住外国人と日本人のトラブルはなぜ起こる？

「外国人はごみを決まった日に出さない」「それは日本語でしか説明がないことにも問題がある」「交流があれば誰かが注意してあげられる。結局外国人が孤立していることが問題なのでは？」

同団体が行った、「わたしの隣の外国人」を知る・つなげる連続講座」では、こんな熱い議論が繰り広げられました。「正解が見つからなくてもいい。議論することが大事。他人ごとではなく自分ごとなのだ」と自覚することが相互理解の第一歩です」と語るのは、同団体事業推進グループの朴娟景さん。

「政府の方針もあり、今後も在住外国人は増えるでしょう。避けられない流れなら、仲良く快適に共に暮らす方法を探したほうがいい」



朴娟景さん。ご本人も韓国出身の外国人。

■ 日本人も本当は在住外国人と仲良くなりしたい

同団体は1972年に設立し、バングラディッシュ、ネパール、日本で貧困問題に取り組んできました。

今年度の活動内容

◆ 連続講座（会場はいずれも大久保地域センター）

第1回講座「日本の在住外国人について知ろう」
令和5年8月26日 / 講師：吉富志津代氏（武庫川女子大学教授）

第2回講座「多様な人々が行きかう町、新宿」
令和5年10月21日 / 講師：室橋裕和氏（ジャーナリスト）

第3回講座「みんなが住みやすい町、新宿」
令和5年12月9日 / 講師：井口真氏（東京YMCA高等学院院長）、武田一義氏（新大久保商店街振興組合事務局長）、山本重幸氏（共住懇代表）

第4回講座「町の活力をともに生み出す」新宿の在住外国人と話そう」
令和6年2月17日 / ゲストスピーカー：コス・ソバ氏（ネパール）、ハフィン・ジアオ氏（ベトナム）、ソヨルエルデネ・オコンボロル氏（モンゴル）

現在は、貧困問題のみに囚われずに①多文化共生、②日本に住む外国人支援、③防災訓練の事業、④子どもの権利を守る活動の4つを大きな柱とし、さまざまな社会課題の解決に取り組もうとしています。

特に力を入れているのは①の多文化共生。「新宿区民の10人に1人が外国人。しかし関わりが少なく、外国人にマイナスイメージを持つ日本人も多い。外国人も新宿区民だという意識を育て、相互理解を深めることで互いに助けあえる関係性を作りたい」

そこで今回の助成事業に参加し、冒頭でも紹介した連続講座を開催することになりました。

4回の連続講座を行い、第1回から第3回では、日本人の区民を対象に、有識者による講演会やワークショップを開催。最終回の第4回では、新宿で暮らす外国人数名を招いてパネルディスカッションを行ったのち、日本人と外国人の交流会を開催する予定です。

「第1回から第3回までで合わせて約50名の方にご参加いただきました。アンケートでは次回はこういう方に会いたい、外国人ともっと腹を割って話をしたいなどの声。講座中の質問タイムでは挙手が止まらないほどで、参加者の熱量が感じられました」と朴さん。「これからも、同じ新宿区に住んでいる者同士、もっと共生して楽しく暮らしていこうと動きかけていきたい」と今後の活動について意欲

的に語ります。

■ 楽しいと思えるイベントを開催

今回助成事業に申請して良かったことは、「金銭面だけでなく、新宿区の職員の方が親身になって活動を支えてくれたこと」と朴さんは語ります。「広報紙で講座を告知してくれたり、緊急の告知には『SNSを利用しては』と助言をくださったたり。区が応援してくれていると感じて、とても励みになりました」

助成事業が終了しても、多文化共生の活動は継続していきます。今回参加してくださった方たちには、お互いにつながって共に多文化共生の考えを広げてほしいと朴さんは期待しています。

「今回は講座が中心でしたが、今後は母国の料理をみんなで作って食べるなど、多くの人が楽しめるイベントを企画したい」と朴さん。交流し親しくなれば、トラブルが起こったとしても話し合いで解決できるし、そもそもトラブルも起こりにくくなるはず。外国人と日本人の心地よい共生が、このコミュニティから始まり、大きな輪となり広がっていきそうです。（令和6年1月11日取材）

取材を終えて 在住外国人の方と共生をしていくことの必要性を強く感じました。相手が変わってくれるのを待つのではなく、まずは自分から心を開いていこうと思います。（村山歌南枝）



講師による講演の後、参加者同士で話し合う。外国人との共生に高い関心を持つ参加者が多く会場内には熱気があふれていた。

Event Report

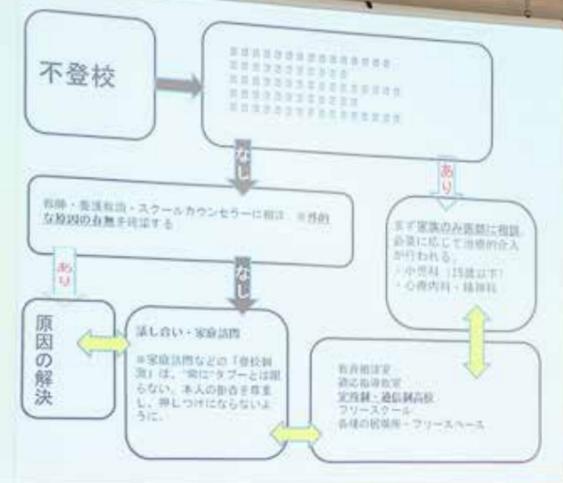


左から宮原麻季さん（事業推進グループチーフ）、坂口和隆さん（代表理事）、朴娟景さん

対立でも支援でもなく、共に生きる

様々な外国籍の方が暮らす大久保エリア。その一方で女性を中心に、韓流ブーム、写真映えグルメ等、幅広い世代の日本人から注目され華やかな観光地のイメージもあります。しかし、今回の3回目のイベントに参加し、多様性溢れる大久保の光と影、外国籍の方との共生等、課題が多いことを知りました。心に残ったのが、「日本人が外国人に寄り添い支える」だけではなく、「外国人だからこそ気づく点から日本人も学ぶ」という発想。対立でも支援でもなく「共によい街を作りたい」という、大久保に住む日本人の皆さんや、シャプラニールさんの想い。大久保発の共生スタイルがどのような未来につながるのか、楽しみになるイベントでした。（陽子）

ひきこもりとその家族を 孤立から救いたい



【紹介事業】

03

令和5年度の助成事業 | 区民のためのひきこもり(不登校を含む)への理解と対策講演会及び、ひきこもり個別無料相談会

団体名 | 特定非営利活動法人 First Step

助成額 | 268,000円

8050問題という言葉をご存知でしょうか。ひきこもりの子どもが50歳になったときに親は80歳。50歳まで就業経験のない子は今後も仕事に就くことは難しく、子の面倒を見てきた親は80歳で要介護世代。生活力のない子どもは親を介護できず世帯収入も途絶えてしまう。これが8050問題です。

特定非営利活動法人 First Step

【団体概要】 不登校・ひきこもりの親と当事者が安心して生活できる社会づくりを目的とし、親向けの情報交換の場の提供、経験者の助言を交えたグループ対話の実施、家庭相互訪問・野外活動、専門家によるアドバイス、当事者向けの居場所づくり・自立支援を行っている。中核スタッフの過半数は元ひきこもりの当事者やその親で、豊富な経験に基づき、困っているみなさんの「はじめの一歩」を応援している。

〒169-0073 東京都新宿区百八町3-6-1
TEL 070(6576)4633 hello@1st-step.tokyo
URL <https://1st-step.tokyo/>

■ 隠れているひきこもりに光を当て救いたい

今やひきこもりの人の数は全国で約146万人。高齢化によって8050の親子は急増することが予想されます。「そうなると大変なことになる」と、NPO法人First Step理事長の岩崎さんは警鐘を鳴らします。数年前、まさに8050の親子が誰にも気づかれずに餓死したというショッキングなニュースもありました。

First Step (以下、同団体) は、ひきこもりの子を持つ家族がどこに相談に行ったらよいかわからず、互いに集まって知恵を交換し合うことから始まった活動です。ひきこもりから回復した元当事者や家族が、次はピアサポーターと呼ばれる、相談者と同じ痛みを経験した相談員となり、ひきこもりからの回復に伴走していきます。当事者の痛みを知り、同じ目線から支援できることが、医師や心理士とは大きく異なる特徴です。

ひきこもりの家族の多くは、ひきこもりの子がいる事実を隠そうとします。そのため行政の支援が届かない、周囲の人も問題に気づかない。また、ひきこもりの家族は、近所の人目に触れないよう、遠く区外に相談に行くことが

今年度の活動内容

◆ 区民のためのひきこもり(不登校を含む)への理解と対策講演会

講演者：斎藤環氏(筑波大学教授)
実施日：令和5年12月9日
会場：四谷地域センター

◆ ひきこもり個別無料相談会

実施日：令和5年12月10日
会場：戸塚地域センター

あつという間に定員が埋まった講演会。主にひきこもりの支援団体や当事者の親たちが参加し熱心に聞き入っていました。



多く、そのため支援を受ける回数が少なくなっていました。岩崎さんは「区内の問題は区内で解決」する体制をつくりたいと考えました。そのためには、ひきこもりのことを近所の人に理解してもらい、偏見をなくすことが必要です。

■ ひきこもりの理解を広げ、支援の輪を広げる

今回の助成事業では①ひきこもりの存在を身近に感じてもらうための講演会と、②個別無料相談会を行いました。

講演会の狙いは、ひきこもりは身近な問題であることを知り、もし近所にひきこもりの人がいると知ったときに、



「親の正解を押し付けず子どもの主体性を大切に」と、理事長の岩崎さん

First Stepという団体があるということ当事者家族に伝えてもらうことです。地域の力を借りて、ひとりずつ、隠れたひきこもりを掘り起こしていくことを期待します。

ひきこもり研究の第一人者である筑波大学教授の斎藤環氏を招いた講演会には100名近くの方が集まり、熱心に聞き入っていました。

「参加者の評価はとても高かった」と岩崎さん。当事者家族からの問い合わせや、支援を申し出る人、スタッフとして手伝いたいという人との出会い、他の団体と横のつながりができるなどの成果もありました。

個別無料相談会には4組の家族からの申し込みがあり、

1組1時間から1時間半にわたり、じっくりと話を聞きました。4家族とも不登校の悩みでしたが、3家族が、次回の「親の勉強会」(毎月開催している当事者家族と支援者のトークセッション)に参加を希望されたそうです。不登校からひきこもりへとつながるケースは少なくありません。文部科学省の調べでは不登校の子の10～20%が長期のひきこもりに至るとされています。不登校のうちから早く会の存在を知って対応をすれば、将来のひきこもりを防ぐことにもつながります。会の名前どおり回復への「最初の一歩」となることが期待されます。

■ 親が変われば子ども変わる、をモットーに

「ひきこもり解決のために一番大切なのは親子の信頼関係」と岩崎さん。子どもがひきこもりから回復するには、ひきこもっていた期間と同じだけの年数がかかるといいます。焦ると悪化すること。「子どもがひきこもったら安心してひきこもらせてあげてください。自ら行動したいというエネルギーが湧いてくるまで焦らず待ちましょう。親が変わればきっと子どもにも変化があらわれます」。悩んでいる方は、ぜひFirst Stepに相談してみてください。

(令和5年12月18日取材)

取材を終えて 子どもの不登校が生涯にわたるひきこもりにつながる可能性があることを知り、ひきこもりをぐっと身近な問題に感じるようになりました。(Y.F)

Event Report



【対話】・「肯定的に受け入れること」が解決の糸口

12月9日(土)午後2時。四谷地域センターで、筑波大学教授の斎藤環氏による講演会が開催され、約100名の方が参加しました。小中学校の不登校の実態からひきこもりの高齢化の問題、親亡き後のファイナンシャルプランまで幅広い視点からひきこもりの問題に迫りました。斎藤氏が強調したのが「対話」の大切さ。「なぜ外に出ないのか」「働きなさい」と説得、尋問、アドバイスするのではなく、「そのままでもいい」「あなたのことをもっと知りたい」というところから対話は始まります。ひきこもりの当事者が「自分を肯定的に受け入れ、主体的にふるまえるようになること」が回復の糸口。また、家族(親)が気分転換の時間を持ったり、信頼できる団体等に助けを求めることも重要とのこと。大変有意義な講演でした。(Y.F)

「お笑い」の力で「外国人は怖い」を「おもしろい」に



【紹介事業】

令和5年度の助成事業 | **新宿国際交流漫才大会S-1グランプリ**

04

団体名 | チーム・フランポネ
助成額 | 500,000円

新宿は東京23区内で外国人が最も多く住む区。文化の違いによる差別やトラブルをお笑いで解決したいと考えたのが、任意団体「チーム・フランポネ」。メンバーのマヌー島岡さんとスイス人の妻シラちゃんは吉本興業所属の夫婦漫才師。お二人に活動の主旨や内容を聞きました。

チーム・フランポネ

【団体概要】夫婦漫才コンビ「フランポネ」を中心に漫才を作りながら日本語を学ぶプログラムを考案し、日本語学校や留学生を受け入れている大学などで活動を行う。「お笑い」を通じた国際交流や、外国人に対する偏見等の軽減を目的とし、芸人の視点で「お笑い」×「新しい多文化共生」を提案している。

〒169-0073 東京都新宿区百人町2-7-9 STKビル
manabu_shimaoka@hotmail.com

■ お笑いで目指す「多文化共生」

日本語（Japonais=ジャポネ）を母国語とするマヌーさんと、フランス語（Français=フランセ）を母国語とするシラちゃん。二人の母国語を組み合わせたのがコンビ名「フランポネ」の由来。マヌーさんは結婚を機に来日したシラちゃんとともに、吉本興業の芸人養成学校NSCで学び、2019年に芸人としてデビュー。芸能活動のかたわら、2020年頃から、日本語学校で「漫才で覚える日本語」という講座を行っています。そのきっかけは、「文法中心の学習ではなかなか日本語を覚えられなかったシラちゃんが、漫才を学ぶようになってから、めきめきと日本語がしゃべれるようになった。これは、日本語学校で学ぶ外国人にも効果があるのではと思ったんです」

そこでマヌーさんは、簡単な日本語を使って漫才をつくることで、楽しみながら日本語を学べる講座を企画。新宿区だけで約60校もあるという日本語学校に提案し、賛同を得た学校で実施をしてきました。

「新宿区は外国にルーツがある人が多く、言葉の問題や文化の違いなどから、子どもが学校になじめない、近隣の

今年度の活動内容

◆日本語学校で漫才作成講座を開催

令和5年8月～令和6年2月
20回(10校×2回)

◆外国人留学生による漫才大会(新宿国際交流漫才大会S-1グランプリ)開催

令和6年2月24日
14:00～16:00
会場：四谷地域センター

授業は、①学生同士でコンビを組む、②コンビ名を決める、③簡単な漫才を作る、④ネタを披露、という流れで進みます。



2月24日に開催された、新宿国際交流漫才大会S-1グランプリには約20人が参加しました。

東京富士大学国際交流推進室室長で教授の塩谷由美子先生、小川達也准教授のゼミ生たちに授業に参加していただきました。

人とトラブルになるなどの問題が起こりがちです。しかし、日本語がわかれば解決につながる。また、一緒に漫才を楽しむことで多文化共生ができるのではないかと考えたんです」とマヌーさん。しかし、芸人の派遣にはお金がかかるため、マヌーさんたちの活動を広げるには限界がありました。そこで任意団体を結成し、芸人仲間の藤田ゆみさんの協力を得て今回の助成事業に応募したのです。

■ 日本語学校で漫才講座 集大成は外国人による漫才大会

「今度の日曜日、どこに行く？」

「ハナゲを見に行きたいなあ」

「あ、それは鼻毛、じゃなくて花火だろ」

これは、マヌーさんとシラちゃんが日本語学校で行った「漫才作成講座」の一コマ。講座の冒頭で漫才の基本的な作り方を説明し、2人組になって3行の漫才シナリオを作り、最後に発表するという内容です。

「ボケがおかしなことを言ってツッコミ役が何かがどうおかしいかをツッコミという形で説明するのが漫才の基本。外国人が言い間違えて笑われた日本語がそのままネタになるので、慣れない外国人でも短時間で3行くらいの漫才ができてしまうんです」とマヌーさん。

助成事業では、区内の日本語学校10校×2回、合計20回の授業を実施。その集大成として、外国人による漫才大会「新宿国際交流漫才大会S-1グランプリ」を、2月24日に四谷地域センター多目的ホールにて開催。



取材を終えて 笑いのおかげで楽しく言葉が学べるだけでなく、知らない人との間の壁が、いとも簡単に取り払われることを実感。この素敵な試みが全国に広がりますように！ (石井栄子)

フランポネのお二人(左がマヌー島岡さん、右がシラちゃん)。元大手商社マンだったマヌーさんは会社を辞めてベルギーの大学院に留学し修士号取得。ベルギーの日系企業に勤務していた時にシラちゃんとお会い結婚。帰国して二人で夫婦漫才を始めたという異色の経歴の持ち主。

過去にも山口県周南市、京都の立命館大学、横浜市(横浜市立大学と共催)でも同様のイベントを行ってきたというチーム・フランポネ。「このイベントを通して、お笑いによる多文化共生を実現させたい。そして、外国人=怖いというイメージを外国人=面白いに変えていきたい」とマヌーさんは力強く語ります。

■ 笑いには社会課題を解決する力がある

講座に参加した外国人たちからは「楽しみながら日本語が学べる」「日本の漫才がわかった」「簡単に漫才ができて楽しい」などの声があがっています。日本語学校の先生からは「『読む、書く、聞く、話す』の4技能がまんべんなく学べる優れたプログラム」との評価を受けているそうです。

漫才は、今や「MANGA(マンガ)」や「KAWAII(カワイイ)」と同様、「MANZAI(マンザイ)」として、世界でも通用する日本の文化となりつつあります。

「新宿区から日本のお笑いを世界に広めたい」とマヌーさん。「お笑いには、社会課題を解決する力がある。私たちの活動によって、日本に暮らす外国人と日本人の心の壁をなくし、相互理解や国際交流につながればうれしい」

外国人学校だけでなく、障害者施設からも声がかかります。今後も笑いの力で人々の相互理解と交流を深めてくれることを期待しています！

(令和5年12月20日取材 協力：東京富士大学)

子どもの文化体験を支援し 人生をより豊かに



【紹介事業】 令和5年度の助成事業 | **子どもの文化体験格差解消プロジェクト**
 05 団体名 | 特定非営利活動法人 あそびと文化のNPO新宿子ども劇場
 助成額 | 364,000円

「すべての子どもたちに豊かな文化を！」を合言葉に48年もの長きにわたって活動を行っているNPO法人あそびと文化のNPO新宿子ども劇場（以下同団体）。2023年11月にはNPOの信頼性を評価するグッドガバナンス認証も取得しました。

子どもの文化体験格差解消を目指して

すべての子どもには、芸術や文化を平等に楽しむことができる『文化権』があると子どもの権利条約第31条に明記されています。文化豊かな環境で育まれた感性は、子どもたちの生きる力につながります。だからこそ、置かれた環境の違いで文化体験に格差があってはならないとの強い信念のもと、1975年に誕生した同団体。2025年には創立50周年を迎えます。理事長の藤岡紗絵さんと、事務局長の松島貴美子さんに活動の主旨等を聞きました。

同団体は、子どものための様々な文化活動を行っています。1つは、子どもの年齢に合った「舞台鑑賞」の開催。演劇、音楽会、マジックショーなど様々な演目が定期的に行われています。また、文化庁が実施している「文化芸術による子供育成推進事業」に関わり区内の学校にプロの芸術家を派遣しています。同団体は学校のニーズに合った文化体験を講師の特徴を生かして届けています。

もう1つは、学童クラブ等、放課後の児童が集まる場所へ遊びのファシリテーター（進行役）を派遣する「あそびの出前事業」。鬼ごっこやお手玉、工作などを教え、子どもたちのあそびの幅を広げます。こうした事業には教員や施設関係者にも一緒に参加・体験してもらうことで、子

特定非営利活動法人 あそびと文化のNPO 新宿子ども劇場

【団体概要】 「子どもの権利条約」の精神に基づき、子どもと大人を対象に、演劇、音楽、芸能、遊び等の様々な文化活動を総合的に地域につくり出し、子どもたちの心豊かな成長を育むための文化的環境の向上を目指す団体。子どもたちの文化的環境の向上に関する体験事業、地域・サークル活動への育成・支援事業、講座・講演会等の開催事業、子どもの健全育成に関する普及啓発事業等を行っている。

〒162-0853 東京都新宿区北山伏町2-17 ゆったり〜の共同事務所
 TEL 03(5261)8696 URL <https://kodomogekijo.net/>

今年度の活動

- ①アーティスト派遣事業
令和5年12月 2回開催
- ②あそびの出前事業
令和5年10月～令和6年2月 5回開催
- ③講演会 令和5年7月8日、12月3日 開催
- ④文化体験里親寄附制度準備事業(実行委員会)
令和5年7月～令和6年3月 8回開催



左から理事長の藤岡紗絵さん、事務局長の松島貴美子さん



12月3日に行われた「育つなら新宿」と題する講演会。約40名が参加しました。



「あそびの出前事業」では遊びのファシリテーターを学童クラブに派遣。

もの日常にあそびが継続的に広がるようにします。大人が、日常とは違う子どもの一面を知る好機にもなっています。キャンプ、ワークショップ、交流会など様々な企画も、子どもたちが自力で行けるよう身近な場所で行っています。これらは、多世代交流の場ともなっています。

■ 本物のアーティストによる文化体験を届ける

今回の助成事業では、①アーティスト派遣事業、②あそびの出前事業、③講演会、④文化体験里親寄附制度への準備事業を行いました。

①アーティスト派遣事業では2つの小学校に舞踊・落語のアーティストを派遣、②あそびの出前事業では、学童クラブや放課後ひろばに遊びのファシリテーターを5回派遣しました。③講演会では学童、子ども食堂、外国ルーツの子どもの支援、障害者支援などに関わっている方とパネルディスカッションを開催。多様な子どもの姿が見えてきました。また、文化は趣味や余暇ではなく、権利として当たり前前に享受できることが大切だと学びました。松島さんは「他団体と交流ができたことは一つの収穫。一方、子どもを取り巻く環境や体験格差が意外に世間に知られていないこともわかった。この現状を多くの区民に知ってもらい、地域社会で子育てを応援する土壌を作りたい」と語ります。④文化体験里親寄附制度への準備事業としては、まずいろいろな環境の中にいる子どもたちの状況を知り、その子ど

もたちにどのようにしたら文化体験を届けられるのか、どのようなシステムが作れるのかを文化体験里親寄附制度準備委員会で検討。この問題を広く区民に伝えるための報告書も作成します。

■ 協力の輪を広げ、機会をより多くの子どもたちへ

「私たちだけで子どもたちを支援することは難しい。今後は他団体とのつながりを強化し、民間企業にも積極的にアプローチして、子どもたちを支援する機運を作りたい」と語るのは理事長の藤岡さん。同団体では「みらいチケット」というアイデアも構想中。これは、文化体験のチケット代を先払いするという名目で企業や団体、個人から寄附を募り、子どもたちに無料で観劇や音楽鑑賞などの文化体験をしてもらうというもの。こうした活動の信頼性を得るために、グッドガバナンス認証を取得しました。

「幼いときに子ども劇場で舞台鑑賞をしたという子どもたちが成長し、今度は自分が恩返しをしたい」と、運営に関わっている人もいます。「自団体だけでは手が届かないことも、今回のように協力を得て届けて行きたい」と藤岡さん。子どもたちの笑顔のために、今後も活動は続きます。
 (令和5年12月12日取材)

取材を終えて 戸山小学校の取材では、子どもたちのキラキラした表情に触れ、あそびや文化体験の大切さを実感しました。(徳留祐子)

Event Report



玉川大学芸術学部演劇・舞踊学科の楠原竜也准教授(中央)とその教え子の3人のダンサー、ドラマーの皆さん

身体を動かしてコミュニケーションをとる楽しさを体験

2023年12月12日、新宿区立戸山小学校の体育館で、アーティスト派遣事業によるワークショップが行われました。参加したのは2年生の2クラス、男女53名の子どもたちです。実技指導を行うのは、プロのアーティストで玉川大学芸術学部の楠原准教授と助手を務める3人のダンサーたち。本物のドラムセットの迫力を感じながら、「身体で自由に表現することの楽しさを知ろう!」と語りかけます。最初は見様見真似で身体を動かしていた子どもたち。すぐに夢中になり、お互いの動きを観察しながら最終的には思い思いに身体を動かしていました。終了後は楽しかった、またやりたい!という熱い感想がたくさん寄せられました。(Y.T)

協働推進基金助成金制度は、区の財源と、みなさんからの寄附金からなる新宿区協働推進基金を原資としています。社会貢献活動の活性化のため、ぜひ寄附のご協力をお願いします。

寄附のご協力をお願いします



- ◆新宿区協働推進基金は、区民が享受するサービスを区民自らの寄附金で実現するかたちとして、平成16年に設置されました。
- ◆令和4年度は、寄附金1,421,053円を積立て、令和4年度末残高は17,521,094円となっています。

寄附をしていただいた皆様のご紹介

令和5年度(12月末現在) 625,000円

寄附申出日	寄附者種別	寄附の金額	寄附者の名称(敬称略)
R5 12月30日	個人	5,000円	匿名
R5 12月19日	個人	100,000円	匿名
R5 12月11日	団体	10,000円	NPO ひとまちっくす
R5 11月29日	個人	60,000円	匿名
R5 11月 7日	団体	10,000円	NPO ひとまちっくす
R5 10月16日	団体	10,000円	NPO ひとまちっくす
R5 9月11日	団体	10,000円	NPO ひとまちっくす
R5 8月14日	個人	300,000円	匿名
R5 7月31日	団体	10,000円	NPO ひとまちっくす
R5 7月 6日	団体	10,000円	NPO ひとまちっくす
R5 4月24日	個人	30,000円	福島 久男
R5 4月 5日	個人	70,000円	塩崎 修平

令和4年度(1,421,053円)

寄附申出日	寄附者種別	寄附の金額	寄附者の名称(敬称略)
R5 3月26日	個人	2,000円	匿名
R5 3月24日	団体	101,500円	東京税理士会新宿支部 支部長 石井 大地
R4 12月 7日	個人	200,000円	匿名
R4 10月11日	個人	89,553円	荻野 善昭
R4 9月20日	個人	300,000円	匿名
R4 9月20日	個人	100,000円	山口 千絵子
R4 9月12日	個人	50,000円	塩崎 修平
R4 6月17日	団体	100,000円	インフォテクスコンサルティング株式会社
R4 6月 1日	個人	100,000円	匿名
R4 5月24日	団体	48,000円	東京税理士会新宿支部 支部長 石井 大地
R4 4月22日	個人	30,000円	福島 久男
R4 4月15日	個人	300,000円	匿名

協働推進基金寄附申出書

新宿区長あて 年 月 日

私(当法人)は、協働推進基金の目的に賛同し、新宿区に対し下記のとおり寄附します。

記

- 氏名(法人名・代表者氏名) _____
- 住所 _____ 連絡先 ☎ _____
- 寄附金額 金 _____ 円
- 希望する活動分野(活用先を希望される場合のみご記入ください。)

活動の分野をご希望の方は、以下の活動分野に○を付けてください(複数記載可)。

保健・医療・福祉	災害救援	情報化社会
社会教育	地域安全	科学技術
まちづくり	人権擁護・平和	経済活動
観光	国際協力	職業能力開発・雇用機会拡充
文化・芸術・スポーツ	男女共同参画	消費者の保護
環境	子どもの健全育成	市民活動支援

お預かりした寄附金は、新宿区協働支援会議の協議を経て、新宿区が助成先及び金額を決定します。ご希望いただいた活用先につきましては、最大限尊重させていただきますが、必ずしも希望先に助成できるものではありません。また、ご希望にそえなかった場合も、寄附金を返還することはできませんので、ご了承ください。

ご寄附いただいたことについて、お名前と金額を広報紙等に掲載させていただくことがあります。掲載することに同意くださる場合は、ご署名をお願いします。

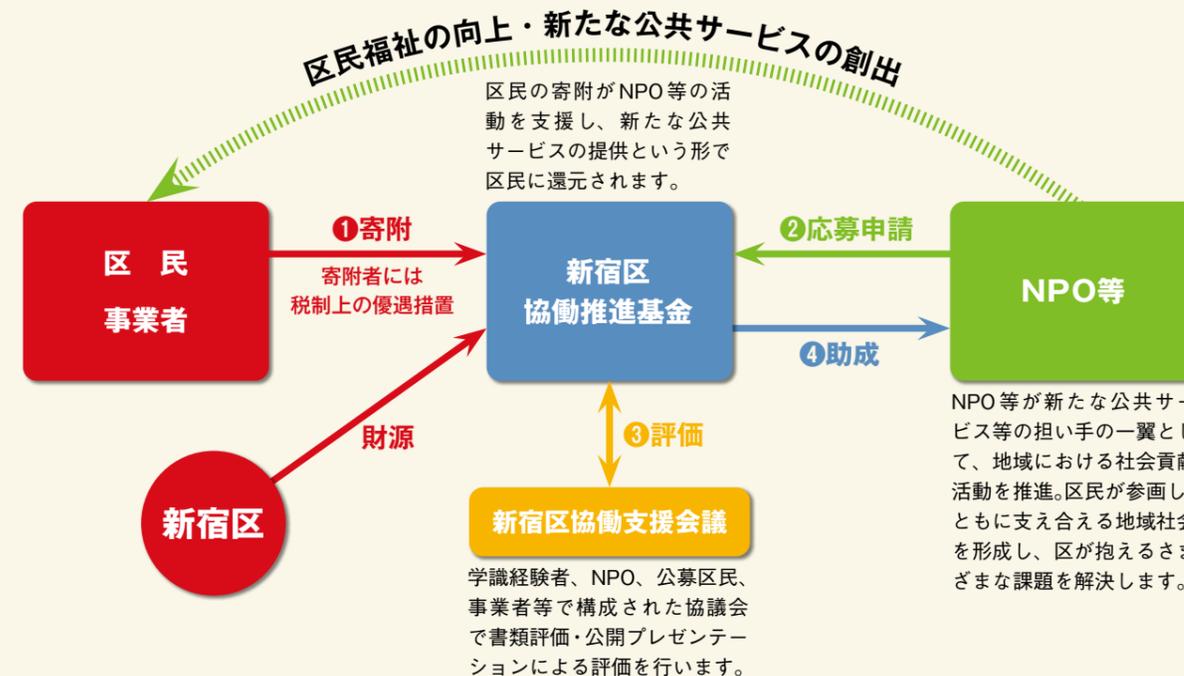
氏名(法人名・代表者氏名) _____

「新宿ソダチ」の目的

「新宿ソダチ」は、新宿区が行っている「新宿区協働推進基金助成金制度」について広く知っていただくために、助成対象になったNPO法人等の事業を紹介しています。

新宿区協働推進基金助成金制度とは？

社会貢献活動を応援したい人(区民・事業者等)と、応援が必要な人との架け橋となる制度です。



新宿区では、地域課題を解決し区民の生活をよりよくするために、社会貢献活動への協働推進基金を活用した助成を通じて、NPO等(特定非営利活動法人・ボランティア活動団体等)の団体が、安定した事業活動を行うための支援を行っています。

区民や事業者など、多くの方から募った寄附金と新宿区の財源を「協働推進基金」に積み立て、NPO等社会貢献活動を行う団体に対して助成金を交付します。助成金上限額は1団体50万円です。団体は助成金を活用して、地域課題の解決や、区民生活の充実に資する事業を行います。

助成対象は？

区民の福祉の向上を目的とした社会貢献活動(営利を目的とせず、不特定かつ多数のものの利益の増進に寄与することを目的として、自発的に行われる活動)のうち、次のいずれにも該当する事業です。

- 新宿区の地域課題や社会的課題の解決を目的とした事業
- 特定非営利活動法人又はボランティア活動団体等の特性を活かして実施する事業
- 区民の社会貢献活動の啓発に寄与する事業

新宿区協働推進基金助成金制度の流れ



「新宿ソダチ2023-2024」を作ったのは？

新宿区地域振興部地域コミュニティ課による「新宿区協働推進基金助成事業紹介『Web マガジン』編集委員」に応募し採用されたメンバーが作成しました。NPO活動についてほとんど知らなかった人、日々NPO活動の恩恵を感じている人、子育て中、介護中、仕事の合間になど、さまざまな立場のメンバーが新宿区民目線で、わかりやすく楽しい誌面作りを目指しました。

※令和6年度の開催については詳細が決まり次第区の広報紙およびホームページで公開予定です。

※内容は予告なく変更となる場合があります。



編集後記

初めて知ることばかりのNPOのセカイ。自ら取材して原稿を書き、編集会議にも参加。楽しくも意義深い経験でした。思いきって公募に手を挙げて良かった！

(徳留)

北海道の田舎で育ち、結婚してアジアを転々。帰国後、新宿に居着いて早20年。今は母の介護の傍ら、大好きな新宿に根を張って、地域活動を続けたい。

(T.A)

オンライン会議でアイデアを出したり一

緒に取材へ行くなど、新聞部にいた学生時代を思い出しながら、楽しく誌面作りに参加できました。

(陽子)

新宿の広報誌の制作過程に少しでも関わられたこと感謝しています。特に取材では相手から言葉を引き出す姿勢が大事だと痛感。ありがとうございました！

(村山)

先生の手直し一つで、同じようなことを表現しているのに、文章が圧倒的にしっくりとくる。その最後の一捻りができた

ら、もっと素敵な文章が書けるのかしら。
(Y.F)

WEB公開を意識しての誌面作り。色々な可能性を考えられて楽しかったです。今後の進化に期待してます！(China.S)

撮影を担当し、たくさんの社会貢献をされる方たちに出会え、多くの学びがありました。キラキラする瞬間を切り取り、新宿ソダチに込めました。読者に同じ感動を届けられることを願っています。
(野口けいこ)

CONTENTS

【紹介事業01】 医療的ケアが必要なお子さんも安全安心に楽しめるおまつりを！ 2	特定非営利活動法人えがおさんさん
【紹介事業02】 日本人も外国人も心地よい共生を目指して 4	特定非営利活動法人シャブラニール=市民による海外協力の会
【紹介事業03】 ひきこもりとその家族を孤立から救いたい 6	特定非営利活動法人First Step
【紹介事業04】 「お笑い」の力で「外国人は怖い」を「おもしろい」に 8	チーム・プランポネ
【紹介事業05】 子どもの文化体験を支援し人生をより豊かに 10	特定非営利活動法人あそびと文化のNPO新宿子ども劇場
寄附で社会貢献 12	
寄附のご協力をお願いします 14	
「新宿ソダチ」の目的 15	
「新宿ソダチ2023-2024」を作ったのは？ 16	



発行 / 2024年3月 編集人 / 石井栄子(いしぶろ)
編集委員 / 相原登美子、賀川陽子、品玉ちなみ、
徳留祐子、幅夏生、藤井陽子、藤田禮子、村山歌南枝
デザイン・DTP / 大野佳恵
撮影 / 野口慶子
イラスト / 品玉ちなみ

「新宿区協働推進基金助成金制度」および「新宿ソダチ」について、ご意見、ご感想などがありましたらお気軽にご連絡ください。

「新宿ソダチ」に関するお問合せ先

新宿区地域振興部地域コミュニティ課管理係

TEL 03(5273)3872 FAX 03(3209)7455 URL <https://www.city.shinjuku.lg.jp/>